



住北通信

第8号 発行日 R元.7.5

発行者 校長 松下 佳司

大東市立住道北小学校

TEL 872-7788 FAX 872-7789

住北小の授業づくり ～学び合い高め合う同僚性～

本校では、「学び合い学び続ける学校」をめざす学校像の一つとして掲げております。教員同士が日々の授業づくりについて語り合う学校風土の下、すべての子どもの学びを支え、学ぶ力を引き出す学習指導が展開できるよう、**授業力の向上**に努めなければならないと考えております。

その骨格となる取り組みが**校内研究**であり、今年度も、**研究テーマ**を「よりよい自分を求めて、自ら学び、高め合い、学びを深める子をめざして」として**国語科**と**体育科**の教科研究に取り組んでおります。

国語科では、**対話と交流**を核とし「**読み**」を深める**国語学習**の創造をめざしており、指導講師として、元大阪狭山市立小学校長の**山本 章**先生にご指導を仰ぎ、今年度は、**2・4・6年生**が授業を公開します。日程は以下のとおりです。

国語科全体研究会 … 6月26日(水)・9月25日(水)・1月29日(水)

そして、体育科では、「**つながる喜び**」「**できる楽しさ**」を実感できる**体育学習**の創造をめざしており、指導講師として、元大東市立小学校長の**近重 修**先生にご指導を仰ぎ、今年度は、**1・3・5年生**が授業を公開します。日程は以下のとおりです。

体育科全体研究会 … 10月16日(水)・11月6日(水)・2月26日(水)

本校の研究体制は、**低学年部会(1・2年生)**・**中学年部会(3・4年生)**・**高学年部会(5・6年生)**が中心となって授業づくりを進める**部内研究会**と、全教員が参加体制を整え、研究討議をする**全体研究会**で組織しております。

そして、各学年の学級担任全員が主体的に取り組めるよう、部内研究会か全体研究会のどちらかで、授業を公開することとしております。



国語科全体研究会

国語科研究

今年度第1回目の国語科全体研究会として6月26(水)の6時間目に**6年2組**の**木下 裕貴**先生が授業を公開しました。6年生では、「私と本」

「森へ」という教材を使い、「本は友だち～ノーブック、ノーライフ～」という単元を組み立て、これまでの読書生活をふり振り返りながら、自分と本との関わりについて伝え合い、文に書きあらわす計画を立てました。そして、教科書にある**ビブリオエッセイ**「私の一冊『森へ』」を参考にして、自分の心に残っている本のエッセイを書くという活動へと進み、自由に交流しながら、互いのエッセイを読み合い、気づいたこと、感じたこと、考えたことなどを伝え合いました。

「**読書ノート**」への取組みにも、とても意欲的な6年生。今回の授業を通して、自分の読書生活の幅もさらに広がったことでしょう。一人ひとりが書きぶりに苦心した**ビブリオエッセイ**は、どのように仕上がったのか、裏面に2名の児童によるエッセイを紹介いたします。



自由にペアで交流



全体で共有



大きな奇跡を教えてくれた一冊

6年2組 小橋 愛実

不自由な体で生まれた、印鑰 理生さんの作品。母にすすめられて、わくわくしながら読み始めた。

わが子の障がいを自分のせいだと責めるお母さんを「病気で生まれることを自ら選んだ」と優しくはげましつつ、「生まれる前の自分はこうだった」と語る不思議なお話だ。

今でも読むと、心を支えてくれるこの一冊。

「生きているというのは、大きな奇跡」

これは、私が読んでいて心を動かされた一言。他の人より苦しい思いが、他の人よりあるはずなのに、生きていることの喜びを私に教えてくれた。苦しみにも痛い手術にも負けないその姿には、まるで別世界から来たのではと思うほど、心に深く刻まれている。

私は、理生さんのように、あきらめないというのが苦手。だからこそ、どんなにつらくても、あきらめないという理生さんを見習う。世界中の人々に、理生さんの気持ちが伝わると良いなと思う。理生さんのようになろうと思う。

『自分をえらんで生まれてきたよ』 著者：印鑰 理生（いんやく りお）

新しい出会い

6年1組 藤田 柚加

この本との出会いは、私が4年生の夏だった。図書室で本を探していた時、歴史のマンガが置かれてあるたなを見つけ、全てに目を通していたときに見つけた本がマザー・テレサだった。

病気で困っている人や道路で生活している人たちのために、一緒に家具や施設をつくり、家族から追い出された人たちのために愛の手を差しのべていく、すてきな物語だ。周りの人から何を言われようとも、あきらめずに自分のことよりも相手のことを考えるというところは、心にグッときた。

私は、この本を読んで、読んでいる人までも心が温かくなると思った。自分は、ときどき相手のことよりも自分のことだけを考える時がある。

でも、マザー・テレサは、違う。貧しい人に限りなき愛を注いでいる。

私は、この本を読んで、大きく人生が変わったとまではいかない。もともと将来の夢だった看護師は、ただ病気に苦しんでいる人たちを助けたいという気持ちで、決めた夢だ。

でも、今は、看護師になりたい気持ちも強くなり、マザー・テレサみたいに愛の手を差しのべていきたいと思っている。

学習まんが人物館『マザー・テレサ』 著者：沖 守弘

家読のすすめ

子どもの読書に関する調査として信頼性の高い「学校読書調査」によりまずと、全国の小学生の1か月間の平均読書冊数は9.8冊、不読者の割合は8.1%

という結果が出ております。小学生については、読書離れとは言えない状況にまで改善されてきたものの、平均読書冊数は6年ぶりに10冊を割り、不読者の割合は2.5ポイントも増えています。

児童のエッセイからもわかるように、読書を通して自分とは違った生き方や考え方を知り、心が刺激され、自分の心の変容に気づくとともに、自分の判断に対する自信もついていきます。家庭での読書のすすめは、その子にとっての未来への先行投資。夏休み、たくさん本に出会わせてあげてください。